

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年4月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1570200996
法人名	医療法人 立川メディカルセンター
事業所名	グループホーム晴遊庵
所在地	新潟県長岡市大字日越337番地 (電 話) 0 2 5 8 - 4 7 - 8 5 2 0

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20 年 2 月 13 日

【情報提供票より】(19 年 12 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 9人、非常勤 1人、常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階 建ての 1 階 部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	□ 有(円) ■ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□ 有(円) ■ 無	有りの場合 償却の有無	□ 有 □ 無
食材料費	朝食 ー 円 夕食 ー 円 または1日あたり	昼食 ー 円 おやつ ー 円 1,000 円	

(4) 利用者の概要 (19 年 12 月現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 83 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	悠遊健康村病院 、 立川総合病院 、 介護老人保健施設悠遊苑
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くに長岡の市街地を一望できる景観のよい丘陵地にあり、医療・保健施設に隣接した恵まれた環境にあるグループホームである。大規模な医療法人が運営母体であるため、運営者、管理者、職員とも安定した運営の中で、生き生きとサービスに従事している。管理者の提案で実施されているホーム独自の内部勉強会の内容は非常に充実しており、職員全体でケアの質の向上に意欲的に取り組んでいる。定期的に職員一人ひとりが「認知症」「老人病」「食事」などテーマを決め、自己研鑽の結果を資料として作成し、それを職員間の共通意識に繋げる体制になっている。

ホームでの日々の生活は、利用者の笑顔を最優先に考え営まれている。管理者、職員の思いから創りだされた理念「あなたの笑顔・あなたの元気・あなたらしく」がそのまま実践に結びつき、ホームの中は優しい笑顔と穏やかな空気があふれている。建物も非常に機能的で住みやすいが、何よりも評価できるのは、利用者、家族、管理者、職員等、関わるすべての人たちの信頼関係ができてきていることである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価で要改善となった項目について、前向きに改善に取り組んだ。特に居室作りでは、備えつけの家具が多い居室の中にひとつでもその人らしい物を取り入れられるよう、職員が工夫をこらし、利用者の思いに添える居室づくりへに努めていた。ホーム独自のきめ細かい各種マニュアルも作成し、感染症対策の取り決めもマニュアルにし実施している。個々の排泄パターンを把握した上での排泄支援も行なっている。お便りの配布や回覧、地域行事への参加、ホーム行事への地域の方の招待などを通じて、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員がサービス評価の意味を理解し、自己評価の全項目に全員で取り組んだ。職員から「大変だったけれど、いろいろ見直せた点で良かった」との言葉が聞かれた。職員全員が常により質の高い支援を目指してサービス提供に取り組む姿勢が伺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 定期的に2ヶ月に1回開催されており、記録も的確に整備されていた。グループホームの意義や内容を広く知っていただくという意図から、運営推進会議のメンバーを固定せず、毎回各分野から異なった人に出席してもらっている。これにより、意見や提案も多面的に聞くことができています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の訪問もほぼ日常的にあり、いつでも気軽に立ち寄っていただける雰囲気になっているので、家族とお互いの信頼関係も友好的に保たれている。苦情、不安なども率直に話していただける環境作りを心がけているが、家族の中には、心を開いていただくまで時間がかかる場合もあり、その原因を職員間で話し合ったりしながら、徐々に信頼が生まれるよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 広大な医療福祉ゾーンに立地しているため、いわゆる一般住宅街との間にかなりの距離があるが、地域との交流に努めている。2つの異なった行政地域の真ん中にあり、またどちらの地域とも連携を持つ必要があり、地域向けの回覧などは100部以上作成し配布している。地域の行事に参加したり、ホームの行事にも招待しながら、徐々に地域の中に認知されるようになってきている。散歩途中に地域の方に声をかけるなど、ホーム側から積極的に働きかけるように努めている。地域の多様なボランティアも受け入れて、利用者を楽しんでいただいている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	簡潔でわかりやすく親しみのある「あなたの笑顔・あなたの元気・あなたらしく」の理念は、管理者・職員が日々の生活の中から考え出したものであり、管理者・職員が目指すグループホームの姿を現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員で考え出したものであり、日常的にその思いを認識し合い、実践に取り組んでいる。玄関先には、利用者が色紙に墨書された理念が掲示されており、来訪者にも伝えられている。		
2 - 2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	地域や家族、法人内の病院・老人保健施設等に配布する各種のお便りにホームの理念を掲載し、理解してもらえよう努力している。毎月発行する家族向け、地域向けのお便りも、カラーや書体など様々な工夫をこらし、読みやすいものにして、ホームの役割や利用者の生活の様子を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的に2つの地域の間際に位置しており、住宅地からは距離的にも離れているため、その2つの地域両方に毎月ホームのお便りを回覧してもらっている。地域行事への参加にも努め、ホームの行事に地域の方を招待するなど、積極的に働きかけている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がサービス評価の意味を理解し、自己評価の全項目に全員で取り組んだ。職員全員が常により質の高い支援を目指してサービス提供に取り組む姿勢が伺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。委員が固定されておらず、毎回違ったメンバーで会議がもたれることで、より多角的な意見、提案があり、非常に充実した内容の会議になっている。無理のない順番で参加していただくよう配慮している。会議録もきちんと整備されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは必要な問い合わせ事項があるときに連絡を取るくらいで、それ以外は地域包括センターとのかかわりで行政との関係を維持している状況である。	○	管理者は市との連携を求める姿勢を持っているので、さらに一歩進めて、積極的に働きかけてはどうか。たとえば見学会や同業者との交流会、健康講座の開催など具体的に市に提案するなど、今後の取り組みに期待したい。市担当者の理解を深め、連携につなげてほしい。
6 - 2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員とも虐待防止について理解し、虐待は日常的にあってはならないことと認識している。虐待防止の研修に参加し、常に虐待防止について高い意識で取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月定期的に、利用者一人ひとりの暮らしぶりや預かり金の出納報告を、ホーム便りとともに家族に郵送している。利用者の状況を迅速に知らせる必要がある際には、随時連絡を取っている。家族などの訪問も好意的に受け入れており、かなり頻繁に訪れる家族もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や電話連絡等で、意見・苦情などを聞き入れるよう努力している。また、運営推進会議には、順番にすべての家族に出席してもらえるよう働きかけており、会議の様子は出席しなかった家族にも知らせるようになっていく。		
8 - 2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者、職員の関係づくりが非常に円滑になされており、お互いの信頼関係ができている。職員が日常的に率直な意見や提案を表出できる職場環境であり、管理者、運営者はその意見を真摯に受け止めて実践につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人の規模が大きいので、異動は皆無ではないが、グループホームとして、職員が代わることが利用者にと与える弊害を理解し、異動は最小限にとどめられている。		
9 - 2	18 - 2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	母体法人の各種マニュアルに加え、ホーム独自のきめ細かなマニュアルが作成されている。職員がマニュアルの作成に携わっており、周知徹底されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人が年間1、2回程度、順番に法人内や外部の研修に参加できるよう支援している。その他ホーム独自の取り組みとして、年間計画でホーム内の勉強会を企画し、職員一人ひとりが項目を決めて資料を作成して研修を行なっている。内容的にも非常に質の高いものである。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はサービスの質の向上を目指し、地域の同業者、同一法人内の事業所などとも積極的に情報交換をしたり、交流会を行なって連携を図り、お互いに学び合える場としている。		
11 - 2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は日常的に職員の状況を把握し、勤務表も一人ひとりの希望を取り入れたり、世代間の差などにも配慮するなど気配りをしている。世代間の相違などもお互いに理解し合っており、温かい雰囲気がある。2、3ヶ月に1回ほど懇親会が持たれていることも職員の楽しみになっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが、系列の老人保健施設からの住み替えであるため、本人も家族も充分納得の上で入居していただいている。入居後なるべく早期に馴染んでいただくよう、居室の掃除など、職員と利用者が一緒に活動できるよう様々な場面で働きかけをしている。入居後間もない利用者に、他の利用者と親しくなれるよう言葉かけを工夫する様子が見られた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が居室やリビングの掃除、調理など日常生活をともに行なっている。調理の方法や味付けなどには、利用者が身につけてこられた様々な知恵を職員が教えていただいたり、また、利用者が洗濯物の整理をさり気なくしていたり、食事後に食器を洗う方がいたり、自然な形で利用者も家事に参加し、職員と支えあいながら生活している。ゲームや歌を一緒に楽しんだりもしている。		
13 - 2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が遠方の場合以外は、家族の来訪はかなり頻繁にあり、職員とのコミュニケーションが密に図られている。職員は、個々の様々な家庭状況を把握しながら、最優先すべきは利用者本人であると認識し、利用者とともに支える家族との関係づくりに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要介護度が比較的軽度の利用者が多く、一人ひとりが希望や意向をはっきり表出できるので、外出や入浴などその日の日課や食事献立なども希望を聞き、可能な限り意向にそえるよう努めている。手芸や書道の道具なども備え、一人ひとりに応じた楽しみごとにも支援している。		
14 - 2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、利用者一人ひとりの生活歴などの重要性を認識している。ホームへの入居は系列の老人保健施設からの移行がほとんどであり、聞き取りが十分でないこともあるので、ホーム入居前の自宅訪問等も行いながら、可能な限り情報収集に努めている。センター方式のアセスメントも一部活用している。		
ny					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、管理者と居室担当職員が家族との十分な話し合いをして作成し、それを全職員に提示して、意見がある場合はさらに検討を重ねている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しは確実に行われている。利用者一人ひとりに現状に即したケアが提供されるよう、日頃から利用者の様子に留意し、見直しまでの期間内であっても、必要に応じて随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望や家族の事情がある場合などには、受診、通院の付き添いなどを行っている。母体が病院であるため、看護師による健康管理や重度化した場合の住み替え等にも対応できる体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が、系列病院の医師がかかりつけ医であり、またホームと隣接しているため医療面での連携は密である。また、毎日、併設病院の外来看護師による訪問があり、日々の利用者の健康管理を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営法人が病院であり、また、老人保健施設とも連携しており、容態が重度化した場合は系列の医療専門機関に移ることについて家族との了解が取られている。また、「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、家族に理解を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日常的に利用者のプライバシー保護を意識して、何気ない言葉かけにも気を配りながら支援をしている。個人記録などはすべてスタッフコーナー内の鍵のかかる書棚に保管されている。公開している記録なども個人情報につながる恐れのあるものには、充分注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、それぞれ自分のその日のしたいこと、望んでいることを自由に表出している。日課として決めていることはなく、一人ひとりが思い思いに手仕事を楽しんだり、コタツでくつろいでいる。入浴時間なども利用者が自由に決めることができ、職員はそれに合わせた支援をしている。		
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度、片付けなどに利用者が楽しそうに関わっていた。献立は法人内の老人保健施設の毎月の献立表を参考に立てているが、料理本などから利用者に希望のものを選んでいただいたりすることもある。		
22 - 2	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ほとんどの利用者が排泄は自立しており、それぞれ居室のトイレを使用している。紙パンツを使用している方には、頃合いを見計らってさり気なく交換支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室が2箇所あり、それぞれ手すりや支えが左右逆に付けられており、利用者の身体的条件に合わせた入浴が可能である。日や時間なども利用者の希望に合わせてよう努めている。入浴用具なども様々な手作りして工夫している。浴室入り口には手作りの赤いのれんをかけ、楽しい雰囲気づくりをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や片づけなどに、利用者がそれぞれ楽しそうに関わっていた。冬季には室内で張り紙細工のカレンダー作り、習字をしたり、夏には畑作りや漬物などの楽しみもある。また、近隣のボランティアグループの訪問なども積極的に受け入れている。乳幼児を抱えた若い母親達のグループの来訪や、職員の子供の楽器演奏などはとても喜ばれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季間はやむを得ず室内で過ごすことになるが、季節のよい時には外出することが多い。昨秋より、ホーム専用の自家用車も配備され、ドライブ、買い物に使用している。また、周辺は散歩に最適な環境であり、日常的に散歩に出かけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束のないケアの大切さを認識しており、実践に結び付けている。管理者、職員ともに、身体拘束はあってはならないことと認識し、高い意識で取り組んでいる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており、自由に出入りできる状態である。玄関から室内に入る引き戸に小さな鈴が付けられおり、鈴の音で出入りを察知して安全に配慮している。		
26 - 2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故予防のマニュアルが整備されている。事故報告書には、原因、対策、検証、評価を記載し、再発防止に取り組んでいる。最近転倒事故が起きたリビングのソファの取り替えも迅速に対処していた。	○	屋外用倉庫への出入り口のドアが、現時点では危険性がないとの認識で施錠されておらず、万一利用者が開けた場合の段差での落下転倒や、倉庫内の洗剤などを誤飲する危険性も考えられる。職員の出入りに不便はあるかもしれないが、今一度検討を望みたい。
26 - 3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	隣接の老人保健施設と内線電話が通じており、緊急時にはすぐ対応できるシステムになっている。また、職員は応急手当の研修を行っており、初期対応は可能である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	災害時の対策についてはマニュアルも整備され、職員の意識付けもなされているが、避難訓練は、隣接病院の訓練実施時に合わせて、応援を得た状況下で行われている。	○	ホームで実際に起こりうる場面を想定し、病院の応援のない状況下での避難訓練も実施することで、より実践的な避難方法を身につけることにつなげてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の老人保健施設の献立表を参考にしてホーム独自で立てた献立を、併設病院の栄養士に見てもらい、意見や指導を受けている。利用者の好みや体調、疾病等を把握しながら、量や形態など一人ひとりに配慮している。また、夜間の水分補給には、一人ずつ記名したペットボトルを用意するなどきめ細かな支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体に木のぬくもりが感じられ、非常に温かな雰囲気がある。リビングには季節感を感じさせる装飾やコタツなどがあり、また、台所には、一般家庭と同様の調理器具や用具が置かれ、家庭的である。食堂の椅子が高すぎる利用者のために、足を乗せる台を手作りするなど細かい気配りが随所に見られた。温度、採光も適切であり、気になる臭いもない。浴室、トイレ、洗面所なども清潔感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとした広さであり、ベッド、タンス、テーブル、椅子などが備えられている。一人ひとりの馴染みの家具などの持込は少ないが、それをカバーするよう職員が工夫し、その人らしい物、その人が大切に思っているものなどを見つけ、喜んでもらえるような部屋作りがなされている。また、本人が仏壇の替わりとして置いている写真に職員と一緒に水と花を供えるなど、居室でその人らしく暮らせるための支援をしている。		